

—ローラ、可愛い方、なんて美人でしょう！ 金髪の女性が言った。

—有難う、ソフィア有難う、貴女も又素晴らしいわ、いつもね。

“ソフィア？ ペペは考えた。まさか、チェマがハントされた女性の名前じゃないか？

そう、そうかも知れない、何と幸運なこと。“

—ねえ、貴女にペペ レイを紹介するわ、有名な探偵なの。

—探偵ですって、私、映画の中にのみ存在する人だと思っていたわ。

ペペはかつて無い程内気になっていた、ほとんど聞こえない声で“今日は”と微笑みながら答えた。“私も映画のみに現れる女性達だと考えた”

★ ★ ★ ★

スシはカサロッハの侯爵と元気に踊っていた。歌が終わったとき、ペペは彼女を探そうとした。

—確かだ、私はチェマのソフィアを捜し当てた。この透けたドレス、彼女はローラ セプルベダの傍に立っている。

—ふざけているわ！ 私が侯爵と一緒にいる時間、彼は誰に会っているのだろう、もう私は彼と踊るのも飽きてしまった、ああ、疲れた、彼(侯爵か)は考えている、自分をすごく美男子で、賢くて、すごく楽しい人だと、事实は、愚かであり誰にも称賛されていない。

—貴女はヘススとの会話で何か知ったことが有りますか？